

## 「社会福祉法人 いのちの電話」沿革

2021年10月1日

「いのちの電話」は、第二次世界大戦後のイギリスで、一人の少女が初潮を当時流行していた梅毒と  
思い自ら命を絶ったことから、“いのちを大切に” “市民運動”として、1953年にロンドンで開始さ  
れた自殺予防のためのサマタリンズ運動に端を発しています。

日本では、ドイツ人宣教師ルツ・ヘットカンプ女史が、売春防止法で失職し困窮する女性を救うため  
夜の街を奔走したが、より多くの相談に応じたいと、当時ドイツで広がっていた電話相談を、1969年に、  
キリスト者有志とともに東京でもぜひ開設したいとの願いをもって準備が始められ、1971年1月に、同  
女史を中心として、東京・飯田橋に事務所が置かれました。そして、同年10月1日午前0時に日本で初  
めて電話相談事業が開始され、1973年12月には社会福祉法人の認可を受け、当法人は特定の宗教色を  
持たず、非専門家であるボランティア相談員による、24時間態勢の市民活動として歩み始めました。

発足以来「いのちの電話」は、24時間休むことなく相談を受けています。困難や危機にあつて自殺な  
どの精神的危機に追い込まれた人たちに、ひとりひとりの命を大切に共に生きましようという基本理念  
の元、活動を続けております（深夜の相談は、2020年4月より8月までコロナ禍のため休止し、9月よ  
り曜日を限定して再開している）。

### <いのちの電話 活動の流れ>

1971年	10月1日	日本で初めての電話相談事業「いのちの電話」を開始
1972年	4月から	ボランティア医師による電話医療相談事業開始（土曜日14時～17時）
1973年	12月20日	厚生省から社会福祉法人第2種の許可を受ける
1975年	7月から	心理面接相談事業開始（2003年3月休止）
1991年	10月から	聴覚・言語障がいのためのファクシミリ相談事業開始（2011年12月終了）
1992年	12月から	精神障がい者自立支援のデイケア施設開始（2003年3月休止）
2001年	12月	厚生労働省補助事業「自殺予防いのちの電話」開設（12月一週間実施）
2006年	10月から	インターネット相談事業開始
2007年	9月から	「自殺予防いのちの電話」毎月10日実施（朝8時～翌日8時）
2008年	11月	ルツ・ヘットカンプ女史旭日双光章叙勲、ドイツより来日
2009年	6月	東京都若者総合相談「若ナビ」事業受託（～2012年3月）
2011年	11月	40周年記念式典開催
2012年	11月	斎藤友紀雄氏（日本いのちの電話連盟理事）藍綬褒章叙勲
2016年	12月	御下賜金 拝受（優良民間社会福祉事業施設・団体に対する）
2017年	10月から	一般社団法人日本いのちの電話連盟によるインターネット相談事業へ参加
2021年	10月2日	50周年記念式典開催（予定）